

事業報告書 (平成 29 年度)

事業名 y a m a で つ な が る 凸 凹 カ フ ェ
団体名 特定非営利活動法人 まちづかい塾
担当者名 代表理事 藤本真理子

1. 活動内容 (日時、場所、参加対象者、人数、内容等)	
①夜の居場所 社会参加が難しい人たちを支える居場所作り 会場：コミュニティカフェしんせきんち 対象：ひきこもり・ひきこもり経験者 (写真NGの人の写真は外しています)	
 <p>気軽な仲間が 聞きつけて 集まりました まだ 部屋が広すぎる ・・・</p>	 <p>少し人数が増え 期待できるかも ロコミから 問い合わせも 増えてきました</p>
7月1日 参加6人 トークサロン「居場所」	7月15日 参加9人 トークサロン「職場」
 <p>初めての方も 参加が増えて 就職の希望から 通信の高校進学 悩みを聞く事も</p>	 <p>知らない人同士 ここなら喋れる 当事者同士の 愉快的な 親近感が有る</p>
8月19日 参加14人 トークサロン「恋愛」	9月16日 参加17人 当事者発表 & 質疑応答
 <p>天候不良で 参加者は少ない カードゲームで まったり これも楽しい♪</p>	 <p>思いかげない 大人数 大人数が苦手な そんな人も 参加しました</p>
10月14日 参加6人 手作りゲームお披露目	11月14日 参加35人 ひきこもり勉強会「躁」
 <p>ゲームするとの ロコミで いきなり 参加人数が 増えました ゲーム人口多い!</p>	 <p>持ち込んだり 作ったり 思い思いの ゲームの輪が 出来ました</p>
11月28日 参加26人 トーク & ゲーム	12月9日 参加20人 トーク & ゲーム「睦」
 <p>なんとなく 居場所スタイル まったりと 安心できる場所 という安定感が 生まれました</p>	 <p>リピートも安定 持ち寄った ゲームを 教え合ったり 知らない人と 遊べるように ♡</p>
12月23日 参加18人 トーク & ゲーム	1月13日 参加21人 新春ゲーム大会「競」

②報告冊子作成 居場所効果について体験者の気づきなどの参考資料として

会場：コミュニティカフェしんせきんち 岡山市中区藤崎 25 番地

出席：運営委員・サポーター・事務局

日時 1月 6日 冊子の構成、内容検討、及び担当振り当て

1月 13日 原稿 集計

2月 3日 原稿編集、校正

2月 17日 印刷打ち合わせ

場所 コミュニティカフェしんせきんち 岡山市中区藤崎 25 番地

出席 運営委員 ピアサポーター 延べ 36 人

内容 冊子作成編集会議

参加者の「気づき」や「考え方の変化」が、次につながる新たな価値観を育み実践する勇気づけの発表の場として、文章に書くという挑戦を試み、冊子にまとめた。



2. ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

単なる居場所として集うことに始まり、ロコミのネットワークが広がり始めた。ここで楽しい時間を過ごし、愚痴や迷いを話すだけの癒しの場で良いのかを、検討した。

ESD の視点を取り入れ、社会参加の後押しになる勇気づけの場になることを考え、体験者の発表や、テーマに沿って話し合うワークショップを、組み込んだ。

同じような生き苦しさをを感じる者同志の安心感の中で、困りごとを話しやすい安心感が生まれた。気軽にしゃべることができる居場所を活用し、人の体験話を聴く機会も増した。

その中で、同じ体験でも、自分とは違う考え方や価値観が有ることに気づいたようだ。立場の違い、視点の違いのあることを学んだ。そこを変えて考えることで、同じ体験もストレスにならない事もあることに気づき、今後の就労、社会参加に役立てると考える。これは、自閉的になりやすい参加者たちの大きな気づきのきっかけとなり、日々の暮らしに反映されることが期待できる。

話す、聴く という行為は、瞬間的なものにもなりやすい。自分の中の変化に気づき、改めて俯瞰的に自分を知ることにもできるように、言葉で書く、文にするという行為も勧めてみた。

今の自分を知り、ここでの気づきが次なる自分を考えるきっかけとなり、一人ひとりが自分のできることを考え、実践する姿勢が身につくよう、思いを文字で書き、人に伝えることで自分を見直す機会を勧めてみた。

気づきの表れの一つに、他所の居場所の紹介や、一緒に行くことの誘い合いも生まれ、各々の生活にお互い影響し合う変化が出てきた。生活圏が狭い人たちにとって、これは生活改革と言える。自分の事だけに意識が集中しやすい参加者にとって、大きな変化が見受けられたといえる。

- ・社会参加しにくい人たちの社会参加を促し、機会を与えられる。
- ・不登校気味の子どもの勇気づけにも効果が有り、安定した登校で教育を受ける機会を促進できる。
- ・働きたいがなかなか就職に結びつかない人への 勇気づけになる

この三つのきっかけ作り、気づきの場として「誰も取り残さない社会」への、大きな一歩と考える。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

開催当初、参加人数は2~3人で低迷したが徐々に広まり、15人程度が常連となった。常連参加者から希望が有り、仲間意識を持ちやすいスタンプカードを発行。参加の楽しみを、自ら提案するようになった。今後も常連を核として、参加者は少しずつ増えると考えられる。

■経過

- ・毎月2回開催予定だったが、8月9月は、他所のイベントと重なり1回の開催となった。
- ・10月は屋外活動の予定だったが週末に雨が多く、屋外活動は中止となった。
- ・11月以降は安定し、月2回の開催となり、参加人数も増えた。

■考察

参加者の傾向は、20代半ばから40歳までが中心で、ほとんどが男性。男女の出会いの場が少ないことを反映しているようだ。

雑談のテーマは、①職場での生きにくさ ②人間関係 ③恋人募集 の話題に集中した。職場でのトラブルを乗り越えた話に、皆でエールを送り、励まし合う様子が見受けられた。何人かは集まって、出会い系カフェへ挑戦した。一人では行動しにくい、大勢も苦手という特性が見られる。

年齢的にも話題は、就職と恋人募集が中心であり、社会参加への意欲が感じられた。ひきこもりの要因は、場が読めない又は傷つきやすいため人間関係が中心だ。こういう居場所で仲間意識が持てる人間関係が、自信を持たせ、ひきこもり打破に大きく役立つことが解った。

社会参加の安定は、参加する居場所が多いほど安定しているようだ。ここで情報交換し、いろんな居場所へ出かけるきっかけをつくり、さらに他の人へ情報を広げる助け合いが見られた。勉強会への参加が多かった。自分の現状打破に向けて、意識の高いことがよく解る。

居場所が、単なる時間つぶし、遊びの場ではない事、重要な情報交換の場であることを実感した。

■成果

①参加者の中から、自分でも居場所を作ってみたいとの意欲が出てきて、皆で話し合った。

- ・場所は？ ファミレスやマクドナルドなど24時間営業の店でいい →予約の必要が無い
- ・費用は？ ファーストフードの店なら、自分の飲食代だけで済む →自分の財布と相談
- ・内容は？ その日の参加者から募る →ファジーが良い
- ・広報は？ ライン繋がり →全く知らない人は嫌、友達友達までとしなければ不安

②参加者の中から、スポーツ又はカラオケで呼びかける居場所を開催

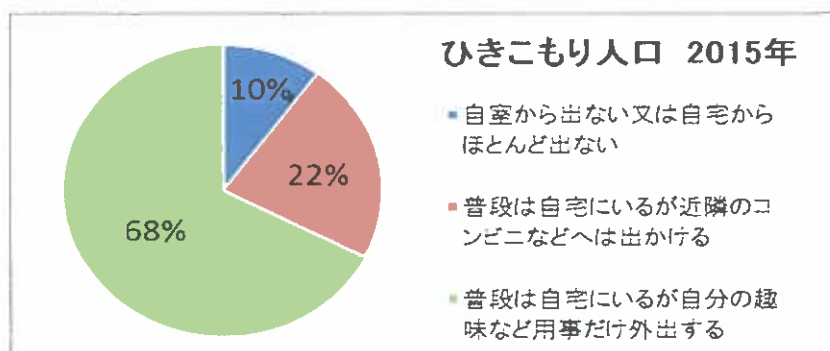
- 理由・・・女性も誘いやすいし、仲良くなるきっかけになる
- 費用が安く上がる
- 参加人数を気にしなくて良い。

●自分たちで呼びかけ居場所作りに目覚めたことは、積極的社会参加の促しの成果と考える。

●場所や内容の違いで、多様な人とのつながりのきっかけとなる。SMSという閉鎖的な広報が起点となるが、そこから広がる人ネットワークに期待したい。

4. 今後の課題と展望

「若者の生活に関する調査」によれば、15歳から39歳を対象とした調査対象母集団において、狭義でのひきこもり認定者率は0.51%、広義では1.57%との結果となった。(2015年内閣府発表)



■今後の展望として

今回の対象者は「普段は自宅にいるが自分の趣味など用事だけ外出する」人たちが9割を占めた。ここを糸口に、「普段は自宅にいるが近所のコンビニなどへは出かける」人たちの引出しを目指す。次に、自分の趣味や居心地の良い場所だけでなく、責任ある役割をさけない体質を養い、責任ある場所へ出かけられる練習の場に「居場所」が活用され、社会参加のための気づきの場になることを目指す。

何が自分の「社会参加を妨げているか」に気付くため又、「社会参加する意義」に気付くための、多様な人たちとの意見交換や、体験発表の場を居場所に組み込んでいく。

■課題として

今年の開催で、コアなメンバーがそろった感が有る。それぞれ個性的ながら、社会参加が苦手と言う共通項を持っている。各自ひきこもりの原因は、「仲間外れ」「孤独感」「劣等感」に多い。疎外された時の心の痛みを知りながら、居場所の中において人へ「出入り禁止」を仕掛けることもある。人との距離感を学び「ひとりでしない、ひとりにしない」の居場所の役割の理解を奨めたい。

●ひとりでしない・・・

ひきこもり系の人たちの特性として「責任ある立場になりたくない」という意識が見受けられた。仕事場だけでなく、居場所開催に関しても「参加したいが、開催日の当番制は嫌だ」「主催グループには、入りたくない」という。実質的にはスタッフとしての役割を果たすが、役割の名前が付くと来られなくなる。「責任がかかることは、やりたくない」異口同音の返答。

失敗の経験が、自信につながり、責任ある立場につく勇気を生む。よって失敗を怖がらない体質を、居場所の中で育む。

●ひとりにしない・・・

自宅へ引きこもっている場合、外部からの情報を絶っている場合も多い。そこへ居場所の情報を伝えることは難しい。たまにインターネットを広げた時、受け取る情報の中へ「参加意欲の湧く」情報として、キャッチされる必要が有る。

ようするに情報提供の方策が、大きな課題となる。